



# 来なはいや、 伊方・八幡浜へ

魅力がいっぱい  
海、山、人の

四国の西側、九州の方向へ海に鋭く突き出た佐田岬半島。半島部分にあたるのが西宇和郡伊方町、付け根にあるのが八幡浜市だ。

瀬戸内海と宇和海という2つの豊かな海に挟まれ、温暖な気候にも恵まれていることが特徴。海岸近くまで山が迫る地形は、この地域を愛媛県内でも有数のかんきつ産地へと発展させた。

古くから海上交通の要衝であり、関西〜四国〜九州とつながる文化の結合点となってきた。今も、遠方から訪れる人や文化をあたたく受け入れる気風は健在。おいしい海の幸、山の幸と朗らかな人たちの待つ伊方・八幡浜へ、ぜひ、  
来なはいや！（来てください）

## CONTENTS

- 02……伊方町ってどんなところ？
- 03……八幡浜市ってどんなところ？
- 04・05…伊方・八幡浜を巡る
- 06……佐田岬半島ミュージアムがオープン！
- 07……エネルギーのふるさと 伊方町
- 08……伊方・八幡浜観光MAP

# 八幡浜市ってどんなところ？



八幡浜市公式インスタグラム「八ちゃんねる」

八幡浜市の素敵な写真がたくさん！  
まずは #八ちゃんねる で検索！



佐田岬半島の根元に位置する八幡浜市は、四国の西の玄関口として海上交易で栄えてきた。街中には、明治期に「伊予の大阪」と呼ばれた風情が残る。現在も九州とのつながりは深く、八幡浜港と大分県の間で1日20往復ものフェリーが運航している。八幡浜と言えば全国屈指のみかんの産地。地形と温暖な気候が栽培に適しており、日の丸、真穴、川上といったブランドみかんは日本中で

人気だ。温州みかんのほかにも、紅まどんな、せとく、甘平等、様々な品種のかんきつ類を生産。これらを返礼品とした同市のふるさと納税額は5年連続県内1位を誇る。水産業も盛んで、四国有数の規模の魚市場には200種以上の魚介が水揚げされる。また、ソウルフードの「八幡浜ちゃんぽん」は澄んだスープが特徴。市内30以上の店で楽しむことができる。



八幡浜市役所 商工観光課 平川 倫丸さん

### 海、山に恵まれた「わくわくする八幡浜」へ

八幡浜のみかんは「3つの太陽」で育つと言われます。日の光、海の照り返し、段々畑の石垣の反射。それらを受け、深みがあり、酸味と甘みのバランスがよいみかんになるのです。また、タイ、ハモ、アジなど豊富な海産物も全国に出荷されており、八幡浜には海と山のおいしいものがたくさんあります。古くから交易で栄えた八幡浜は、新しいものを受け入れる進取の気性があることも特徴です。最近の取り組みとして、毎年開催している「Worldマーマレードアワード」には国内外から約2000作品のマーマレードが寄せられ、マーマレードの聖地として注目されています。また、市内にはマウンテンバイクの国際大会が開かれる公認コースがあるなど、自転車を楽しめるまちとしての認知度も高まっています。近年は南予地域一帯で各地からの修学旅行を誘致し、農業や漁業を体験してもらうなど、交流人口の拡大に力を入れています。「わくわくする八幡浜」へ、ぜひ遊びに来てください。

## 八幡浜市のソウルフード「八幡浜ちゃんぽん」



PRキャラクター「はまぼん」 「ちゃんぽん」と「チャンピオン」をかけた王様っぽい風貌で、チャームポイント はハの字の赤い巾着。

店で、自宅で、「八幡浜ちゃんぽん」を楽しもう。鶏がら、カツオ、昆布などでだしを取った、あっさり風味のスープに、たっぷりの野菜や豚バラ肉を載せるのが基本。さらに特産のかまぼこやじゃこ天を加えるなど、店ごとに特徴がある。「八幡浜ちゃんぽんMAP」を入手して食べ比べをするのも楽しい。ちゃんぽんは八幡浜の各家庭でもよく食べられているソウルフード。特に最近ではカップ麺も人気で、地元ではもちろん、カップ麺マニアを中心に評判を集め魅力が全国へ広がっているとか。お土産で、通販で、いつでもどこでも八幡浜の味を堪能しよう。



# 伊方町ってどんなところ？



四国の最西端、約40kmにわたって海に突き出た佐田岬半島全体が現在の伊方町だ。2005年に旧伊方町、瀬戸町、三崎町が合併して誕生した。半島各所に55の集落が点在し、それぞれに風習や伝統を受け継いでいる。佐田岬半島の建つ先端部から大分県までは一番近いところわずか14km。三崎港から対岸の佐賀関までは、フェリーが70分ほどで結ぶ。昔から漁業が盛んで、

しらすやひじきなど有名。海女(あま)ならぬ男性の「海士(あまし)」が素潜りであわびやさざえなどを採る漁も今に残る。戦後からはかんきつ栽培が盛んならなり、みかん王国・愛媛の一翼を担う。半島の稜線は南北の海を見渡す絶景スポットであるとともに、風力発電の適地として多くの風車が立ち並ぶ。半島の根元北側に位置する四国電力伊方発電所と合わせ、エネルギーのふるさととしての一面も持つエリアだ。

### 雄大な自然とあったかい人がお待ちしています



伊方町役場 観光商工課 井上 美紀さん

佐田岬半島に位置する伊方町は、日本一細長いその特異な地形から、「2つの海が見える町」という特徴があります。北を向けば瀬戸内海、南を向けば宇和海の雄大な景色を町内のあちこちから眺めることができ、半島を貫く「佐田岬メロディーライン」はドライブやツーリングのコースとして人気です。豊かな海に囲まれて海産物が豊富で、特にしらすは伊方に来たら必ず食べてほしい逸品。陸では斜面にかんきつ畑が広がり、伊方地区では早生のみかん、三崎地区では晩柑類などが多く生産されています。佐田岬半島ミュージアムに隣接する直売所「だんだん」は、鮮度抜群の果物や野菜が手に入る知る人ぞ知るスポットとしておすすめ。伊方では今も人と人とのつながりが強く、互いに助け合う「合力(こうりく)」の精神が息づいています。自然も、人もあったかい伊方町で、ぜひゆっくりしてってください。



サダンディー公式SNS

TikTok



ikata\_town\_sadandy

Instagram



sadandy\_ehime

サダンディーファンクラブ

会員申し込みフォーム



ゆるパース(ゆるキャラグランプリ)公式サイト

<https://www.yurugp.jp>

渡り鳥のメッカでもある伊方町に突然舞い降りた、鳥の妖精にしてダンディーなジェントルマン。みかん色の肌、半島の形、のしっぽ、帽子の佐田岬灯台は、気分が上がると光るらしい。みんなを元気にするいい種子をたくさん落とし、しあわせな町へエスコートすることが使命。



## サダンディー

伊方町の広報特命部長に任命され、子どもたちの「チビダンディー」とともに町のPR活動をしている。ややぼったりした「第一形態」に加え、最近、スリムで活動的な「第二形態」を手に入れた。「ゆるパース(2023年ゆるキャラグランプリ)」にエントリー中。みんな応援よろしくサダンディー！

伊方町イメージキャラクター「サダンディー」

八幡浜港に隣接する人気スポット

### 道の駅・みなとオアシス 八幡浜みなっと



#### アゴラマルシェ

地域素材を生かした産直物販・飲食施設。産直・物販エリアでは、とれたてのかんきつ類をはじめ、旬の果物・野菜、オリジナルの6次産品などを取りそろえている。常時100種類以上が並ぶかんきつジュースコーナー、Worldマーメイドアワードの受賞商品など多彩なマーメイドを販売する「アトリウム」も必見だ。

館内にはフードコートとカフェ、石窯パン工房を併設。八幡浜ちゃんぽんや海鮮丼、地元食材を生かしたパン、ピザなどを楽しめる。



#### どいや市場、どいや食堂

その日水揚げされた新鮮な魚介類を浜値で販売している「どいや市場」。各店舗の豊富で特色ある品ぞろえと、威勢のいいかけ声が自慢で、地元業者・市民からも観光客からも親しまれている。「どいや食堂」では、八幡浜港の海の幸を手ごろな価格で、存分に味わうことができる。どいや市場で選んだ素材を炭火で焼いて食べる「海鮮バーベキュー」もおすすめだ。



道の駅・みなとオアシス 八幡浜みなっと  
八幡浜市沖新田1581-23  
☎0894-21-3710

各施設の営業時間、定休日は公式サイトからご確認ください。

<https://www.minatto.net/>

2022年に移転!

### 八幡浜港フェリーターミナル



老朽化が進んでいた旧ターミナル・棧橋に代わり、2022年4月1日、八幡浜港の出島に新フェリーターミナルがオープンした。大分県の別府と臼杵へ、1日20往復のフェリーが24時間体制で運航。年間70万人以上が利用する。

建物は津波の際の避難施設としての機能も有しており、2階には海が見えるカフェも。4階の展望デッキからはみかん畑やフェリーの往来、宇和海に沈む夕日などを眺めることができる。

八幡浜港フェリーターミナル  
八幡浜市出島1581-26

- 宇和島運輸フェリー  
☎0894-22-2100  
<https://www.uwajimaunyu.co.jp/>
- 九四オレンジフェリー  
乗用車・旅客予約 ☎0894-22-5094  
トラック予約 ☎0894-22-1070  
<https://www.orange-ferry.co.jp/>



「伊方ならではの」あれこれが集まる

### 道の駅 伊方きらら館



1階の特産品売り場では、旬のかんきつやかんきつ加工品が年間を通じて販売されているほか、ひじきなどの海藻類、ちりめんなど、伊方町ならではの土産を多数取りそろえている。

2階には部屋全体が海の底の映像となっている「パーチャル水族館」さらには「アトリウム」があり、異次元に迷い込んだかのような体験ができる。ドライブやサイクリングに疲れた人は、3階の休憩所や1階のサイクルオアシスで景色を見ながらゆっくり休憩を。

もうひとつ忘れてはいけないのが、駐車場の一角の「伊方じゃこてん」で売っている「じゃこカツ」。サクサクの衣の下から、新鮮な小魚のうまみがしみ出す。熱々のうちにいただくのがおすすめ。

道の駅 伊方きらら館  
西宇和郡伊方町九町3番耕地179-1  
☎0894-39-0230

○開館時間 9:00~17:30 ※年中無休  
<https://www.kirarakan.com/>

伊方じゃこてん

○営業時間 9:30~17:00  
○定休日 年末年始(12/29~1/1)

佐田岬の魅力がぎゅっと詰まった

### 佐田岬はなはな



半島の先端近く、三崎港フェリー乗り場に隣接している観光交流施設。建物に地場の木材や石垣を取り入れ、2020年にリニューアルオープンした。さわやかな潮風を感じながら、岬と海の景色を眺めるのも気持ちがいい。

三崎港を一望できる「しらす食堂」は、鮮度抜群のしらすや井やぜいたくに盛り付けた海鮮丼が自慢。半島の先まで足を伸ばす価値は十分だ。

売店ではできたての各種しらす商品に加え、いけすでの魚介販売もあるなど海産物が充実。地元のかんきつを使ったジャム、ジュースなども並び、佐田岬の海の幸、山の幸がそろっている。

佐田岬はなはな  
西宇和郡伊方町三崎1700-11  
☎0120-133-004

営業時間

○売店 / 不定休  
(3月~10月) 9:00~17:30  
(11月~2月) 9:00~17:00

○しらす食堂 / 不定休  
10:00~16:30 (L.O. 16:00)

<https://www.shirasu.jp/park/>



# 伊方・八幡浜を巡る





佐田岬半島の尾根付近は遮るものがないため、風を安定して受けやすく、風力発電に適した地形となっている。伊方町内には50基を超える風車が立ち並び、「風車のまち」としても有名だ。自然の力を生かして電気を届けており、陽光を浴びて白く輝く風車は雄大な景色のアクセントになっている。

中には「二見くくりん風の丘パーク」「みさき風の丘パーク」など風車の真下まで立ち入ることができるスポットもある。見上げる風車は圧巻の迫力だ。

# エネルギーのふるさと 伊方町 風況に恵まれた「風車のまち」

エネルギーや原子力を楽しく学ぼう

## 四国電力 伊方ビジターズハウス



乾式キャスク模型



四国電力伊方発電所のPR館「伊方ビジターズハウス」では、展示やゲームなどを通じて、エネルギーや原子力についてわかりやすく紹介している。工作コーナー、科学体験教室などのイベントを定期的に開催しており、地元の子どものための遊び場としても定着している。

シアターホールでは迫力ある3D映像で発電所内の設備をバーチャル体験することが可能だ。また、最近展示に加わったのが、「乾式キャスク」の5分の1模型。乾式キャスクとは、現在、発電所内で建設中の「使用済燃料乾式貯蔵施設」で使用される貯蔵容器。どのように安全を確保しながら貯蔵するのか、容器の断面などを見て学ぶことができる。

館内の見学は自由。スタッフによる案内付きの見学コースも受け付けている。申し込みは伊方ビジターズハウスのホームページまで。

### 伊方ビジターズハウス

西宇和郡伊方町九町字コチワキ3-204  
☎0894-39-1399

- 開館時間 9:00~17:00
  - 休館日 年末年始(12/29~1/1)
  - 入館料 無料
- [https://www.yonden.co.jp/energy/atom/tour/ikata\\_visitorhouse.html](https://www.yonden.co.jp/energy/atom/tour/ikata_visitorhouse.html)



# 歴史、文化、そして絶景を体感 佐田岬半島ミュージアムがオープン!

2023年8月5日、伊方町文化交流施設「佐田岬半島ミュージアム」が待望のオープンを迎えた。唯一無二の地形が織りなす自然や、そこから生まれ、発展してきた歴史・文化について「見る・触れる・学ぶ」を通して体感できる博物館となっている。

中核となる博物館エリア(常設展示室、企画展示室など)は2階に位置。常設展示では半島を形作る地質や、主要な産業となってきた漁業、海上交通、かんきつ栽培などの歴史、55の集落それぞれに伝わる民俗行事などをわかりやすく紹介している。



ほかに多彩な企画展示やイベントなどを開催し、佐田岬半島の魅力を発信していく予定だ。

2階にはミュージアムショップやカフェ、さまざまな用途で使える会議室スペースなどを併設。1階では藍染めショップも営業している。

そしてミュージアムのもう一つの目玉が屋上の展望広場。半島の中でも南北の幅が特に狭い場所にあるため、瀬戸内海と宇和海、両方の眺望が楽しめるぜいたくな空間になっている。



### 半島の「輝き」に触れて

佐田岬半島はかつて陸の孤島とも呼ばれ、点在する集落では、それぞれが独特の風土と特色ある文化を育んできました。これらは輝きを放ちつつ各地に散らばっている状態でしたが、きちんと収集・整理することで、大きな魅力あるコンテンツになりうると考えています。

この魅力を広く発信していくためにオープンしたのが佐田岬半島ミュージアムです。

輝きを調査、記録、保管し、この半島の魅力を余すところなく発信するとともに、次の世代へと引き継いでいく。スタッフ一同、こうした歴史の第一歩を踏み出したことを強く感じています。

皆さん、ぜひ佐田岬半島ミュージアムを訪れ、半島の輝く魅力に触れてみてください。心よりお待ちしております。



佐田岬半島ミュージアム 館長  
阿部 茂之さん

### 佐田岬半島ミュージアム

西宇和郡伊方町塩成乙293  
☎0894-21-3400

- 開館時間 9:30~16:30 (最終入館は16:00)
  - 休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日、12月29日~1月3日
  - 入館料 一般 300円(中学生以下無料)
- <https://sadamisahanto-museum.jp/>





佐田岬はなはな



佐田岬半島ミュージアム



伊方きらら館



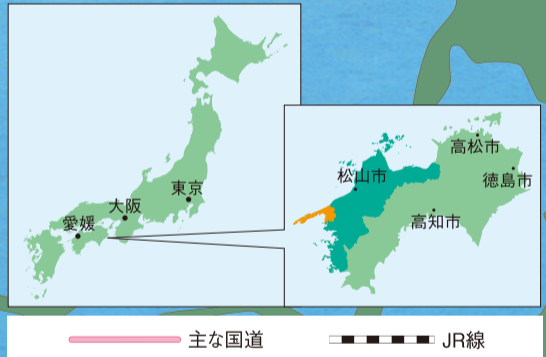
伊方ビジターズハウス



八幡浜港フェリーターミナル



八幡浜みなと



— 主な国道 — JR線

### 主要アクセス

